保育内容の研究（言葉）Ⅱ

三浦正雄

授業概要

言葉による児童文化財の様々な作品について指導します。媒体としての紙芝居・絵本・ストーリーテリング・劇遊び、内容としての童話・昔話・伝記・わらべうた・言葉遊び等について指導します。

児童文化財の様々な作品の成立・歴史・作品評価について学習するだけではなく、児童文化財の様々な作品が子どもの教育・保育上どのような意義があるか、児童文化財を実演する際の事前指導・準備・工夫・事後指導・発展についても、指導を行います。主に研究発表形式で行い、全員が研究発表を行い、それについて指導を行います。施設見学は、土日に授業を振り替えて行います。

履修条件としては、第１回目の授業に必ず参加する（年間計画を説明するため）こと、研究発表を行うこと、土日の施設見学にいくことが必須となります。

授業計画

第１回	ガイダンス
第２回	研究発表の方法と調べ方について
第３回	研究調査①（研究書等）
第４回	研究調査②（研究書等）
第５回	研究調査③（研究書等）
第６回	研究調査④（研究書等）
第７回	研究発表①（紙芝居、絵本）
第８回	研究発表②（ストーリーテリング）
第９回	研究発表③（童話）
第 10 回	研究発表④（昔話）
第 11 回	研究発表⑤（劇遊び）
第 12 回	研究発表⑥（言葉遊び、わらべうた）
第 13 回	学外施設見学①（国際子ども図書館等）
第 14 回	学外施設見学②（東京子ども図書館等）
第 15 回	学外施設見学③（ちひろ美術館等）
第 16 回	総まとめ（期末試験）

到達目標

研究発表を行うことで、言葉による児童文化財のうちから一つの題材を選び、調査・研究を深めます。また、研究発表後の指導や、他の学生の研究発表からも広く児童文化財について学びます。さらには、施設見学によって、言葉による児童文化財についての資料や実演等から幅広く学びます。

履修上の注意

言葉による児童文化財の様々な作品に興味をもち、その成立・意義・作品評価、教育・保育上の意義、及び実演する際の事前指導・準備・工夫・事後指導・発展などについて、全員が調査や考察を行い、研究発表を行います。施設見学も行いますので、児童文化財への興味・関心を高めてください。施設見学は土日に授業を振り替えて行います。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻３回で欠席１回とします。

予習復習

研究発表の題材に選んだテーマ及び内容について詳しく調べ、考え、他者の意見等も参考にしてまとめてレジュメを作成します。

施設見学を行った際は、レポートを作成します。

評価方法

研究発表のレジュメと発表内容・他者の研究発表内容についての発言・施設見学レポート・コメント・期末試験などを総合的に評価します。研究発表は、実演をふくめて行います。

テキスト

テキストは、授業内で指示します。